

第7回 多摩市自治推進委員会 要点記録

- 1 日時：平成29年6月30日（金）午後6時30分から午後8時30分
- 2 場所：多摩市役所3階 特別会議室
- 3 出席委員： 和田委員長、西川副委員長、島野委員、高澤委員、富田委員
- 4 欠席委員： 小城委員
- 4 議事：今後の取り組みについて

1 開会

委員長 第7回自治推進委員会を開催する。

2 議事

委員長 本日の配布資料について、事務局より説明をお願いしたい。

参考資料1から3に基づき、事務局から内容について説明を行った。

何かご質問等はあるか。

今期のテーマが「地域活動に対する気づきときっかけの仕掛けづくり」に決定し、具体的な取り組みについて意見交換を行った。

本日は、これまでの意見を振り返りながら、今委員会で必要な取り組みについて意見交換できたらと思う。

改めて提案等を伺いたい。

委員 前回、お土産プロジェクトの案を提案したが、本委員会でやるべきことと考えると、目的が変わってきてしまうということと、任期内にできるようなプロセスではないと考えた。今委員会でできるアクションが必要であると思う。限られた任期の中で行うとすると、今ある取り組みに何かを仕掛けることができれば良いと思う。

先日タウンニュースを拝見したところ、多摩市企画課主催で、若者会議の開催についての記事が掲載されていた。若者の意見を聞いてみるだけでもヒントや成果があると思った。若者会議へアンケートやヒアリングを行うなど、今ある取り組みを活用し、本委員会の報告書をまとめられると良いと思った。

企画課 若者会議は、39歳以下の方からの多摩市の活性化を目的に設置した会議である。

第1回では、50名程度の参加があった。市民の有無は問わず、市外からの参加も多い。外から見た多摩についての意見が貰えるので、ありがたい。周知としては、たま広報や多摩市公式ホームページ、ツイッター等で行ったが、口コミによる広がりが一番大きかった。

全4回を予定しており、口コミ等により、毎回前回の約2倍の参加人数になることを期待している。8月に第2回目の開催を予定しているが、80人ほどの参加を想定している。

副委員長 若者会議を設置しようとした理由は何か。

企画課 若者の声を聞く機会がないためである。

地域活動で若者の参加は実際にあるが、祭りやイベント等のマンパワーの部分が

ほとんどであるため、もっと若者の意見やアイデアを聞く機会が必要なため。

委員

テーマについては、対象をしぼるより、世代等問わず全体にした方が良いと思う。

目標は、自治の参加が高まって、行政への疎外感がなくなることである。いろんなきっかけを考えてみたが、すでに様々なイベントや取り組みを市でも行っているため、本委員会でもまた新しいことを行うよりは、今あるものを有効活用し、課題等を見つけ、解決につなげていく方が良いと思う。

多摩市地域福祉計画を読むと、市民参画につながる計画が多く記載されていた。

地域や健幸都市の取り組みでは人とのつながりについて記載されており、地域ボランティアの現状や地域活動の課題や解決策についても記載されていた。

今後の目標値等も記載されており、目標に向けての具体策や取り組みについて学び、アクションにつなげられたら良いと思う。

委員

限られた時間の中で提言を出したい。内容としては、本委員会として、自治を推進していくようなものでなくてはならないと思う。

ただ、調査や実験等はこれまでの委員会では行っていないので、実施できるとすると、新しい取り組みとして面白い報告ができると思う。

委員

多摩市地域福祉計画と本委員会のテーマをリンクしていくことが出来ると、多摩市としての目標としても目指すところが同じになるので良いと思う。ただ本委員会の設置目的に沿った対策と報告を行う必要がある。

委員長

多摩市地域福祉計画には、人づくり等について具体的な取り組みも記載されている。地域活動と福祉のテーマが重なっているため、自治推進の内容も網羅されていると思う。

企画政策部長

地域の担い手づくりについては、公民館等が行っているため、目標を達成するための取り組みについて聞いてみるのも良いかもしれない。

委員

今年初めて、地域コミュニティの活動に参加した。想像したより高齢者率が高いと感じた。年功序列的な体制であるのであれば、取り組みを変えていかないと若返りが図れず、担い手が現れないと思う。市民が行動することで目標への達成度も変わってくるのではないかな。

副委員長

これからのまちづくりを考えると、高齢者の意見だけを聞くのではなく、若者の意見をくみ取れるようにすべきである。例えば、高齢者がつくったNPO等の団体に若者は入れない。これからは若者のまちづくりを進めるべきではないかな。

また、担い手づくりについては、文化・市民協働課の職員等から話を聞きたい。

委員

若者会議での若者の意見と地域福祉計画の取り組みを比較してみるのも良いかもしれない。

高度成長期に作られた多摩市は、比較的新しいまちで、考え方も若かったと思う。今は高齢化が進み地域の組織もマンネリ化しているのではないかな。多摩市ではニュータウン再生が行われているが、地域組織の建て替えもここで必要なのではないかな。

まずは、若者の意見を聞いて、これからの多摩についてヒントを得たい。

企画課

多摩市職員もメンバーとして参加している。

副委員長 コアメンバーはいるか。どのように選任したか。

企画課 会議は、ファシリテーターに進行をお願いしている。
コアメンバーについては、ファシリテーターの推薦や、市内大学に依頼し、大学から学生を推薦していただいた。
16名程がコアメンバーとして参加しており、会場設営や運営を行っていただいている。

企画政策部長 今回の若者会議は、ファシリテーターがいるから人数が集まったと思う。たま広報を見て応募してきた数はかなり少ない。
地縁による活動はなかなか人数が集まらないのが現状である。
テーマ型の知縁による活動は、目的ははっきりしているので、集まりやすい。

副委員長 地縁による活動については、周知しても集まらないことが、今では当たり前になっている。
若者会議の参加の集まりには仕組みがあった。これは口コミによるものだが、アナログではあるが、口コミの影響力が大きいことが改めて分かった。
地域活動に人が集まらないということを焦点にするなら、活動しない人の意見を聞くのも良いと思う。
そして、自治会等の地域活動団体が運営や存続に対してどれだけ本気かも聞く。参加しない人の理由をどうとらえるか、どう活かすか、そして若者が町会内でも活躍する場をどう作っていくかによって、地域活動の存続も変わってくると思う。
人は限界が近いと変わることが出来る。提言として、「地域活動に参加しない理由、そして、そこを解決しないと団体の存続はなくなるかもしれない」のような報告をしても面白いかもしれない。

委員長 多摩市は若いまちであり、まちが作られた時に活動を始めた人たちが今でも続けているのだと思う。
年代のシフトを変えて、若者がこれから活動を始められるような環境を作っていくことも重要だと思う。
まずは、8月4日の若者会議を傍聴し、意見を聞いてみたいと思う。また、次回の会議だが、若者会議を傍聴した後に本委員会を開催したいと思うがいかがか。
全員賛成
では、7月24日に開催予定の第8回委員会は、8月4日以降に日程を変更することで良いか。
全員賛成

3 その他

企画課 8月4日（金）に開催される若者会議の傍聴については、自由参加とするが、ぜひ傍聴いただければと思う。

第8回自治推進委員会の場所や開始時間については後日連絡する。

4 閉会